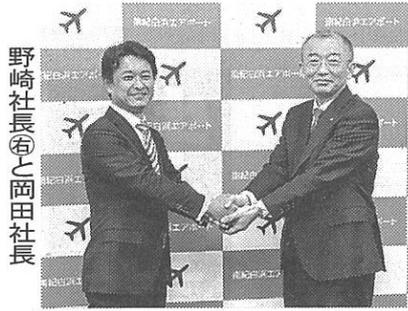


空港維持管理で提携

オリコンサルと南紀白浜エアポート



野崎社長（左）と岡田社長

コンセッション（公共施設等運営権）方式で1日か

ら南紀白浜空港（和歌山県白浜町）の運営を開始した南紀白浜エアポートの岡田信一郎社長と、オリエンタルコンサルタツの野崎秀則社長は15日に南紀白浜空港で会見し、1日に締結した業務提携契約の狙いなどを説明した。オリコンサルはアセットマネジメントや災害リスク対応に関する専門技術、独自のICTツールなどを活用し、▽土木施

設維持管理▽観光・地域活性化▽交通の各分野で貢献していく。南紀白浜エアポートは、経営共創基盤（東京都千代田区）など3社で構成する企業体が出資、設立した。昨年7月に和歌山県と「南紀白浜空港特定運営事業等公共施設等運営権実施契約」を結び、4月1日から和歌山県の事業を引き継ぎ、空港基本施設や滑走路の運

営を開始した。

会見の席上、野崎社長は「今後も南紀白浜エアポートと協議を重ね、周辺自治体にも提案を行いながら施設の熟度を高めていく。夏にも社会実験を行い、提案を現実あるものにしていきたい」と話した。岡田社長は「地域の実情を理解いただき、非常にありがたく、力強いパートナーだと思っている」と期待を寄せた。

南紀白浜エアポートは空港施設の適切な維持管理による安全確保を経営目標に掲げる。土木施設の維持管理に加え、地域の活性化や交通分野でも豊富な実績と経験を持つオリコンサルと業務提携契約を結んだ。契約期間は3年間。

維持管理分野では点検・診断技術や長寿命化計画等の策定支援、災害等のリスク管理、PM・CMといった専門技術、独自のICTツールなどを活用。土木施設の供用性や航空機運航の安全性確保、施設の長寿命化、維持管理の効率化・高度化を図っていく。

観光・地域活性化分野では、白浜町や紀南地域全体の回遊の促進・滞在時間の増加を提案。小型電気自動車による移動手段の確保や、携帯アプリによる観光案内などの情報発信により、地域観光の促進に貢献する。交通分野では郊外部でのパーク&バスライドや、即時交通情報提供などを組み合わせた総合的・複合的な対策を通じ、夏場の海水浴・花火シーズンの交通渋滞緩和を目指す考えだ。